

鹿屋 吾平 輝北 串良

鬼火焚きで今年1年の無病息災を願う



下祓川町内会

新春の夜空を焦がす「鬼火焚き」が、市内の各地区で行われました。

鬼火焚きは、モウソウ竹などで組み上げたやぐらを、正月を飾ったしめ縄や門松などと一緒に燃やす九州地方に昔から伝わる伝統行事で、今年1年の無病息災などを祈願するものです。竹の威勢よくはじける「パーン、パーン」という大きな音が邪気を払い、その炎に暖まれば1年を健康に過ごせると言われています。

市内では、それぞれの町内会や親子会などで「鬼火焚き」が行われ、新春の夜空に向けて大きく燃え上がる火の前に、参加者全員で今年1年間の無病などを願いました。

●**鹿屋地区**＝郷之原親子会、吉ヶ別府親子会、南町子ども会育成会、高隈中央地区子ども会育成会、下祓川町内会

●**吾平地区**＝鶴峰東地区育成会、鶴峰中地区育成会、鶴峰西地区育成会

●**輝北地区**＝浦谷地区むらづくり委員会、下諏訪原地区むらづくり委員会、仮屋子ども会、竹下子ども会

●**串良地区**＝柳谷町内会、上小原地区子供育成会、岡崎下むらづくり推進委員会、城ヶ崎町内会

串良 「二十三や市」大勢の人でにぎわう



1月24日・25日の2日間、串良総合支所周辺の約1kmの道路を歩行者天国にして、「くしら二十三や市」が開催されました。

この「二十三や市」は、江戸時代後期に正月用品の物々交換の場として始まったとされています。植木や刃物、陶器、衣類などを販売する約300店舗がずらりと並んだ通りには、朝早くから大勢の買い物客が訪れ、品定めをする人でにぎわいました。また、会場では、剣道大会や消防音楽隊パレード、保育園児による太鼓やマーチングなども行われ、二十三や市を盛り上げました。

吾平 「名物あいら木市祭」が大盛況



1月10日・11日の2日間、吾平町麓の商店街約300mを歩行者天国にして「名物あいら木市祭」が開催されました。

吾平地区の冬の風物詩として、また、県内で一番早い木市として有名な「名物あいら木市祭」は、商店街の活性化と地域振興を目的に行われているもの。通りの両側には地元商店街や市内外から多数出店し、植木や苗木、地元加工グループの手作り加工品などが販売されたほか、太鼓演奏や歌謡ショー、お楽しみ抽選会などが行われ、市内外から訪れた多くの人でにぎわいました。

吾平 親子で凧作りを体験



1月10日、大隅広域公園大隅の里で「親子凧作り体験教室」が開催されました。

当日は、親子連れなど19人が参加し、ビニール袋を使って悪戦苦闘しながら凧を作り上げました。完成後は、親子で凧揚げも行い、空高く舞い上がった凧に子どもたちは、「あんなに上がるとは思ってなかった」と驚きながらも、楽しそうに凧をあげていました。

鹿屋 AEDの取扱方法を学ぶ



1月24日、市武道館で「AEDの取扱法等講習会」が開催されました。これは、自動対外式除細動器（AED）の取扱方法について、地域スポーツ指導者や施設利用団体などを対象に行われたもので36人が参加。講習会では、消防隊員を講師に、AEDを使用した心肺蘇生法などの講習が行われ、参加者は、AEDを実際に使いながら真剣に取り組んでいました。

鹿屋 串良 韓国の高校生が野球合宿



韓国のチョンウォン高校43人とチュンアン高校34人が、2月11日まで市内で野球合宿を行いました。両チームは国立大隅青少年自然の家に宿泊し、鹿屋運動公園野球場と平和公園多目的野球場を交互に使用しながら、日曜日以外毎日約6時間の練習を行いました。生徒たちは「設備も整っていて練習に打ち込める」と話し、一生懸命に汗を流していました。

鹿屋 吾平 輝北 串良 葉たばこの種まき



1月21日、鹿屋・吾平・串良地区で、23日には、輝北地区で葉たばこの種まきが行われました。

葉たばこの種は、非常に小さいため土と均等に混ぜてからまかれ、15日ほどで発芽します。畑に定植後、5月下旬から7月末まで収穫が行われ、1週間程度乾燥されます。種まきに参加した生産農家等は、豊作を祈りながら、心を込めてまいていました。

鹿屋 吾平 輝北 串良 子牛の初せりが行われる



1月19日から21日まで、肝属中央家畜市場で子牛の初せりが行われ、約1,500頭の子牛がせりにかけられました。今年は、景気低迷の影響を受け前年より平均価格が下落してしまいましたが、生産者は大事に育てあげた子牛を真剣な眼差しでせりにかけていました。

また、曾於中央家畜市場でも1月27日から30日まで、子牛の初せりが行われました。

鹿屋 吾平 輝北 串良 なわとび選手権大会が開催



1月11日、市体育館で「第17回なわとび選手権大会」が開催されました。

大会には、市内の小学校13校から4～6年生の約500人が参加。1回旋跳び、2回旋跳び、交差跳びで跳び続けた時間の長さを男女別に競う個人戦や、長縄10人跳びで跳んだ回数を競う団体戦が行われ、子供たちは優勝を目指してリズムよく跳んでいました。